（様式）

令和4年度　学校評価　学校関係者評価書

学校名	三木市立自由が丘東小学校

1 学校教育目標

心豊かに　健やかに　夢に向かって学び続ける子の育成　　～考える子・思いやる子・やりぬく子～

2 本年度の重点目標

1　保護者や地域の願いを大切にした信頼される安全で安心な学校づくり
2　互いに認め合い、助け合いながら共に伸びようとする仲間づくり
3　基礎的・基本的な力の定着、考え合い話し合う学びの場づくり
4　児童一人一人に寄り添い、個々の課題に応じたきめ細かな指導の場づくり
5　教職員の同僚性を高め、協働的に取り組む職場づくり

3 自己評価結果（達成状況）【 A：達成している　B：概ね達成している　C：あまり達成していない　D：達成していない 】

評価の観点	評価項目（取組内容）	取組（達成）の状況	評価	改善の方策
学習指導	○ 思考力を育てるための楽しくわかりやすい授業づくりを行う。 ○ 月ごとに学習目標を立て、学習習慣の定着を図る。 ○ 基礎基本の定着と協働学習をめざすためにタブレットを活用した学習を行う。	○ 研修を継続して行うことで、思考力を育むための授業づくりを進めることができ、児童の様子からも一定の成果が窺える。 ○ 学習目標を設定するとともに、達成に向けての方策について、教員間で具体的に話を進めることができた。 ○ 研修を継続して行うことで、タブレット活用の幅が広がった。今年度は協働学習場面での活用が広がったことは成果であるといえる。	B	○ 今後は思考力とともに、読む力、書く力、話す・聞く力等、それぞれの観点において、つけたい力をより具体的にイメージして、授業づくりを行う。 ○ 学習目標について、児童とともにふり返る活動を取り入れ、目標をより意識して学習できるようにする。 ○ 作製したデータや取り組みを教員間で共有することで、さらなるICT活用の広がりをめざす。基礎的な力の定着をめざしてのタブレットの使用については、日常の中に位置づける。
特別活動	○ 学校行事の工夫 ○ 主体性を育てる児童会活動の工夫 ○ 体験学習の推進	○ 内容や練習時間の設定を工夫して運動会や音楽会の代替行事を実施し、充実感や行事を通じた成長を感じとらせることができた。 ○ 児童会を中心に40周年記念キャラクターを募集、全校生の投票により決定し、より親しみをもってもらえるように活用するなど、節目の年の意識づけができた。 ○ 児童会が中心となり、学校行事の計画進行を行った。その時々の状況に応じて臨機応変に取り組んだ。 ○ コロナ禍においても可能な範囲で、宿泊を伴う校外学習、環境体験学習や三木のふるさと学習等の充実に努めた。	A	○ 感染症対策を講じながら、児童の意欲や達成感を向上させる行事を実施する。 ○ 児童が自ら課題を見つけ、解決に向かう姿をサポートし、児童が主体となって運営できる児童会や特別活動をつくる。 ○ 今年度の活動を踏まえて年間計画を立て、見通しをもって活動し、あいさつ運動や異学年交流にも力を入れる。 ○ コロナ禍においても、可能な環境体験学習、ふるさと学習においてより学びが深まるよう、計画、指導の充実を図る。
道徳・人権教育	○ 道徳教育の充実 ○ 思いやりに満ちた仲間づくりの推進 ○ 人権意識の向上	○ 年度当初に立てた指導計画を基に、計画的に学習に取り組んだ。 ○ 仲間づくりをテーマに夏季に研修会を行い研修に努め、学級経営案を基にした一人一人を大切にする温かい学級づくりを行った。 ○ 通信を使った親子人権学習に取り組んだり、高学年を対象に人権講演会を実施したりした。学習内容については、通信等で、家庭にも発信し、人権意識の向上に努めた。	A	○ 授業力向上のため、さらなる研究と昨今の課題を反映した心に響く授業づくりを行う。 ○ 児童同士のトラブルや問題を解決するための、多くの目での児童の見守り、児童と向き合う時間の確保をする。 ○ 全ての教育活動の根幹に人権を守る視点を捉え、差別を絶対に許さないメッセージを伝え続けていく。 ○ 研修を計画的に組み込み、教師自身の人権意識の確立を図る。
特別支援教育	○ 支援の必要な児童の情報共有 ○ 支援を要する児童の理解と支援の充実 ○ 家庭や関係機関との連携	○ 特別支援教育校内委員会を定期的に開催し、個別の教育指導計画を基にした児童の手立てについて共通理解する機会を設けた。 ○ 必要に応じてケース会議を設けたり、家庭と関係機関（教育相談・通級指導等）をつなぐような働きかけを行ったりした。 ○ 関係機関・教師間の連携をもとに、児童に合わせた手だての検討や実践に努め、インクルーシブ教育システムの構築に努めた。	B	○ 引き続き特別支援教育校内委員会を定期的に開催し、児童の手立てについて共通理解する機会を設けることを継続して行う。 ○ 必要に応じたケース会議を基に、児童に応じた支援方法と環境づくりの検討を継続して行う。 ○ 関係機関との連携、教師間の連携をもとにした、インクルーシブ教育システムの構築を継続して行う。
生徒指導	○ 基本的生活習慣の確立 ○ いじめ・不登校に関する取組の充実 ○ 児童の内面理解推進のための取組	○ 毎月の生活目標に「あいさつ」の文言を取り入れ、毎日、6年生児童及び教職員が進んであいさつを行い、児童のあいさつへの意識を高めた。 ○ 日頃の生活指導（あいさつ・校内での過ごし方・登下校の様子等）について、定例の委員会で確認し、教職員間の共通理解を図った。 ○ 落ち着かない様子の児童や問題行動があれば、教師間で連絡を密に行い、ケース会議を実施し、家庭と学校、学校内の密な連携をとることで、児童を支援した。 ○ 心のアンケートやカウンセリングにより児童の内面理解に努めた。	B	○ 「あいさつ」の励行については、教師が子どもの手本となるよう率先垂範するとともに児童からの啓発活動が起きるような活動の工夫を ○ 下校時に安全に帰ることを意識できるように教職員間で共通理解し、指導を続けていく。 ○ いじめ・不登校ゼロに向けて、未然防止、早期発見、早期対応をチーム学校として行えるように取組を継続する。 ○ 引き続き、児童の内面理解のための教職員間の密な連携を行う。
保健・安全 防災教育	○ 心身の健康に関する意識の向上 ○ 学校施設点検・交通安全指導の徹底 ○ 防災教育の推進 ○ 学校生活全般における感染症対策への取組	○ 安心して学校生活を送るために「新しい生活様式（自由東小マニュアル）」に準じて感染症対策を講じた。学校行事も感染症対策を一番に検討し企画した。 ○ 姿勢改善のため腰骨タイムを継続し、朝すっきりとした気持ちで学習に臨む習慣が身についている。体力づくりのため、わんぱくタイムに外遊びやなわとび教室などを実施している。 ○ 安全面では毎月定期的な施設の安全点検を行った。 ○ 三木市防災マニュアルを確認しながら危機対応訓練や避難訓練を行った。	A	○ 学級指導やほけんだより、委員会活動など工夫しながら感染症対策の徹底を図る。ウイズコロナであっても感染予防は継続すべきなので、手洗いや換気、咳エチケットなど引き続き啓発する。 ○ 腰骨タイムでよい姿勢で授業に臨む習慣をつけるため引き続き継続する。体力づくりを啓発する声かけや体育委員会からの学年遊びやなわとび教室等の活動を継続し充実させる。児童の健康状態について全職員が共通理解をするよう努める。 ○ 定期的な安全点検を行い、異常個所については即対処する。 ○ 様々な想定で危機対応訓練や避難訓練を実施し、救急体制の徹底を図る。
教職員の研修と 資質向上	○ 学習指導要領を踏まえた授業展開の探求 ○ 一人一研究授業等、校内研究の充実 ○ 外部研修の受講（対面・オンライン等） ○ 危機対応研修の取組 ○ 小中一貫教育に向けての研修	○ 算数科を中心とした研究を進め、一人一研究授業を実施し、講師を招いた全体研修も実施できた。ICTを活用した授業実践を進めることができた。 ○ 学年研究日を設けて教材研究をしたり、学級経営や体育科等のミニ研修会を行ったりした。アレルギー対応、救急法、シュミレーション研修などを実施した。 ○ 専門研修講座を多分野にわたって受講し、研修を積むことができた。 ○ 中学校区での小中一貫教育研修会で各教科や担当ごとの分散会を実施したり、めざす15歳の姿を考えたりして、児童生徒の実態や課題などを共有した。	A	○ 今年度のように、一人一研究授業や講師招聘の全体研修を行う。ICT活用について、データの共有や意見交換をして実践を全体に広げる。 ○ 今年度のように、事前研、事後研では、つけたい力を明確にして授業づくりを検討する。 ○ 各担当が受けた研修内容を教職員で共有する。 ○ 小中交流教員の学びを全体に広げ、めざす15歳の姿を共有し、具体的な手立てにつなげる。
家庭・地域との 連携	○ 家庭・地域との連携強化 ○ 学校からの情報発信や状況に応じた学校公開、家庭・地域からの声を大切にする、地域とともにある学校づくり	○ 毎月、学校通信、学年通信等を保護者の方に向け発行し、「すぐーる」で配信した。 ○ 授業参観やオープンスクール、運動会や音楽会等の学校行事については、新型コロナウィルス感染状況を考慮しつつ、保護者の方が可能な限り参観できる方法を工夫した。地区別や学年別等、保護者の参加人数を制限した参観、時間や規模を縮小した参観等を実施した。受付時には、PTAと連携し、参加者の体調管理を行うなど感染防止対策を講じた。 ○ 多様なPTA活動が企画、推進された（奉仕作業、とんど集会等）。またボランティアの参加を募り、多くの保護者の協力のもと、PTA活動が実施された。 ○ ホームページを随時更新し、学校の取組を発信した。	A	○ 新型コロナウイルスへの対応を考慮しつつ、保護者や地域の方、児童にとって魅力があり励みとなるオープンスクール及び学校行事の開催を目指す。また、PTA親子行事やゲストティーチャーの招聘など、保護者や地域の方とのふれあいを大切にした体験学習等を実施する。 ○ より有益な情報提供となるための（個人情報の取扱いに注意した）「学校ホームページ」の随時更新、積極的な情報発信に努める。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

【自己評価方法は適切である】
26の評価項目と29の取組（達成）の状況が適切に設定され、評価されている。児童・保護者・教職員アンケートの実施による評価結果やその考察をもとに評価されているため、自己評価方法は適切であると言える。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
【評価Aは適切ではあるが、評価Bとしてもよい】 今年度より新たに「思考力を育む授業づくり」という共通理解のもと、全教職員で学習指導に取り組んだことは評価できる。 AIドリル導入によって個別最適な学習や家庭学習の可能性が広がり、保護者アンケートのポイントの向上から家庭にも理解されていることが窺える。 教職員アンケートのポイントも向上してるが、児童アンケート「授業中、自分の考えを深めたり、広げたりできましたか」の項目が、さらに向上することを期待して、今年度を評価Bとしてもよい。
【評価Aは適切である】 コロナ禍ではあったが、教職員と児童が一体となって感染対策を施し、運動会（東っ子オリンピック）については3年ぶりに保護者参観ありの開催となった。その結果、保護者アンケートで「お子さんは、学校行事や学校での様々な活動を通して成長していると感じられますか」との保護者アンケートで99.1%の肯定的評価を得ておりポイントも上がっている。 児童会を中心に40周年キャラクターの作成、あいさつキャンペーンの実施をするなど児童主体の取組により、学校が活性化したことが評価できる。
【評価Aは適切である】 教職員アンケートの「配慮を要する児童の実態や指導方法について、全職員が把握し、継続的に支援を行ったか」、「共に認め合い高まり合う学級づくりに取り組んだか」の項目においてポイントが大きく向上していることから、教員間で情報交換をしたり、支援体制を組んでサポートし合ったりするなど、教職員間の連携がとられていることが評価できる。 「特別の教科　道徳」は、年間計画に沿って計画的に実施、評価されている。 来年度は道徳にかかる研修授業を通して、教員間の相互研修を深め、授業力向上に努められたい。
【評価Aにすべきである】 特別支援委員会が定期的に開催され、支援の必要な児童にかかる情報共有等が密に行われている。また、ケース会議を度々開催し、児童理解と支援について意見を出し合い、チームとして取り組まれていることが評価できる。 結果として数字に現れにくい項目であるが、学校、保護者、関係機関と連携しながら継続した取組に努められたい。
【評価Aにすべきである】 登校時はあいさつが十分ではないかもしれないが、下校時には、元気な声であいさつしてくれる児童は多い。参観日なども挨拶してくれる児童は多い。 いじめ・不登校対策については、関係機関と連携し、ケース会議にしっかり取り組まれている。支援体制が十分構築できていることは評価できる。 今後も教職員全体で児童一人一人の把握・分析に努め、適切に対応されたい。
【評価Aは適切である】 児童、教職員が学校生活を安心して送るため、新型コロナ感染症対策として、「新しい生活様式」自由が丘東小マニュアルに準じ、実践されたことは評価できる。 姿勢改善、体力向上の取組も工夫し実施されている。継続して取り組まれたい。 教職員のアンケート結果からも施設の安全面について、気をつけていたことが分かる。 避難訓練や、医療的ケアが必要な児童へのシュミレーション訓練を複数回実施するなど、危機対応の研修もなされている。
【評価Aは適切である】 アンケート結果から、先生方は十分取り組まれていることが分かる。先生方が子どもが主体的に学ぶために授業を変えていくんだという思いをもって、自主研修会や学年団での研修に取り組まれている。子どもたちが生きていくうえで大事な力を身につけるような取組をされていると思う。 自由が丘中学校区の3校で小中一貫教育の研修会をされている。また、交流研修も互いに実施され、小中一貫教育でめざす姿を検討し、教師間で交流ができているのがよい。 今後もこれらの研修に継続して取り組まれたい。
【評価Aは適切である】 各学校行事について、PTAと連携し、コロナ禍でも可能な限り保護者が参観できる方法を工夫されている。また、PTAによる奉仕作業やとんど集会等が行われ、多くの保護者との連携がなされている。 ホームページが随時更新され、情報発信に努められている。保護者や特にコロナ禍で訪れることができない地域住民にとって学校の活動のようすが良くわかり、内容も充実していることは評価できる。 引き続きPTA・地域とともに歩む教育活動に取り組まれたい。